

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1172000364		
法人名	一般財団法人 鳩ヶ谷中央病院		
事業所名	博寿会 ゆとりの郷		
所在地	埼玉県川口市桜町6丁目12番55号		
自己評価作成日	令和4年5月22日	評価結果市町村受理日	令和4年9月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://hato-hsp.jp/yutorinosato/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社シーサポート
所在地	東京都練馬区東大泉3-37-2
訪問調査日	令和4年6月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

中庭が広く、四季の花々が多く、雨が降らない限り中庭に出て、お茶・ボール遊びや歌を歌って楽しんでいます。柿や栗等、庭で採れた物をおやつにしたりしています。
 ・恵まれた環境を生かしながら、日々のレクリエーション(散歩、家庭菜園、お花見)を実施しています。 一人一人の個性を生かしたきめ細やかな介護の実施
 ・母体が病院であるため、医療と介護の連携、専門科目は、訪問診療で対応
 ・コロナ禍においては、外部との接触をさげたり、消毒、手洗いを頻回に行い、感染拡大を防止しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

●利用者の生活の記録は支援ソフトを活用して行われており、業務の効率化、資源の省力化が進められています。また写真を活用するなど文字では伝わりきれない情報を共有することで利用者への支援および体調管理の向上に取り組んでいます。
 ●計画様式を見直すなどわかりやすさと実効を意識した計画作成に努めています。モニタリング・職員意見聴取・家族の意向確認など作成のサイクルが確立しており、利用者の背景、行動パターンの把握と利用者により寄り添いながら支援につなげています。
 ●利用者の体調への考慮を優先しており、サニタリー用品の選定、食事の提供にはじまり接遇に至るまで配慮と意識に努めています。新型コロナウイルスの影響により利用者のストレス緩和にも心をくだいており、終息状況をみながら再開をしていく意向をもっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は、企業理念をしっかり把握して毎日取り組んでいる。理念は、ホールの壁に大きく掲示してある。	理念をもとに制度・法令・環境の変更に合わせた対応に努めている。新しい職員に対しても方針を伝え、安定した運営の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加しており、自治体の盆踊りには参加したりしている。利用者との散歩の際は声を掛け合い気軽に話している。	新型コロナウイルスの影響により交流・親睦を中断・縮小している。地域とのつながりが途切れることのないよう終息と再開を待っている。	終息後には「いつもどおり」を目指し、地域との交流、外出、家族の通院同行など法人に相談しながら安全に進めていく意向をもっています。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けて、認知症の人の理解、支援を広げられるように、地域のイベント等に参加している。そういったことにより、認知症に関する人々の理解が得られている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議に出た後の報告を職員全体が受け止め内容を把握し取り組んでいる。地域包括支援センター、民生委員、地域の方が来席しています。	新型コロナウイルス蔓延防止に配慮し、運営推進会議は書面開催にて代替しており、定期的での報告にあたっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者の指導を受けています。	行政の担当課、地域包括支援センターとは電話等にて報告、連絡にあたっている。またホームの概要を記したチラシを作成し、関係機関等への配布を通して理解を深めてもらえるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、原則禁止しています。玄関の施錠もありません。夜間のみ	身体拘束廃止委員会を開催し、高齢者虐待防止等の研鑽にあたっている。やむを得ない場合等のスキームについても整備・確認がなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3ヶ月に1回以上虐待の会議を行い、日頃から、虐待の芽を摘むべく、講習を行い、周知徹底を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議の時、包括支援センターの方と、家族が参加して、勉強会をしようと計画していますが、コロナ禍で、開催していませんが、現在計画中である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を取って丁寧に説明している。特に利用料金や起こり得るリスクや重度化に伴う説明をし同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口は設けてあるが、その他のご意見ボックス設置、意見を聞けるようにしている。また、法人の第三者評価制度の説明も家族に話している。	コロナ禍にあっても窓越し、リモート機器活用等にて面会を実施している。また写真を使用した便りを送付し、家族等へ近況を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体のミーティングで職員の意見要望を聞くと共にミーティング時にテーマを決めて話している。	毎月の実施する全体会議時には利用者の支援内容やケアプラン更新等について話し合いがなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	意欲を引き出すような環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で、法人内外の研修を交代で受け入れる予定である。個人的に資格取得の為、学校に行く職員には、勤務調整をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今後の課題としてそのような場を設けたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の申し出を断ることなく、職員は傾聴し、受け止め解決している。何事も相談できるよう信頼関係を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が来所された際は、必ず少しの時間でも会話をするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意向で、訪問眼科、皮膚科、精神科、歯科等、利用者様の意に沿ったかたちで、サービス利用を実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は居室にいることが少なく、フロアでテレビを見たり、中庭に出てお茶したり、職員と過ごすことが多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月その月その様子を写真を撮って送っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	皆様高齢の為、頻度は少ないが、数カ月に一度ご近所の方や友人が来所される。尚、現在はコロナ化の為、自粛している。	新型コロナウイルスの影響によりカラオケや歌唱など利用者の習慣となっているレクリエーションも縮小・中断している。体操・塗り絵など他の楽しみにて代替しながら対応を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の思いやりがあり、孤立せず互いに助け合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の病院に入院になることがあるので本人の様子を見に行ったり、家族と会って相談にも乗っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の暮らし方を見ながら、意向の把握に努める。困難な場合は、職員同士ミーティングをして良い方向にもっていく。	利用者の背景、行動パターンを把握し、利用者に寄り添いながら支援にあたっている。コミュニケーションがとりづらい利用者に対してはケアプラン作成にはじまり日々の支援においても本人本位の検討にあたっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人いろいろなこと、昔話など話せる雰囲気になっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕のバイタルチェック、排泄記録、個人記録を申し送りなどで現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族が来所の際、家族と計画作成担当者として話し合いを持ち、意見を聞き計画作成している。	計画様式を見直すなどわかりやすさと実効を意識した計画作成に努めている。モニタリング・職員意見聴取・家族の意向確認など作成のサイクルが確立している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践結果や工夫等、個人記録し、情報を共有しているいろいろなことに生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が居室にいて、花見をしたり、庭に出て散歩したり、長い時間一緒に過ごしている。外出外泊などについては、コロナ禍で自由に過ごすことは出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で、現在できていないが、イベントの時は、ボランティアの方に協力して貰っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が必要としている利用者は家族の人に連れて行って頂いています。必要としない人は併設の病院に受診している。	隣接する法人の病院にて受診をし、健康管理がなされている。他の医療機関への受診にあたっては新型コロナウイルス蔓延防止のため職員により行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の看護師が、相談に応じている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際だけでなく、併設の病院との関係づくりは、行われている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時は、家族と医師と話し合いをして頂き、併設の病院、他の病院へ入院していただく。	ホームでできる支援については説明と話し合いにあっている。併設の病院、家族と確認しながら支援の継続に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	昼間は併設の病院、夜間は、救急車、訪問医をお願いする。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施している。スプリンクラーを設置している。地域の方への協力をお願いしている。	火災、水害等の想定のもと避難訓練を実施している。職員の漠然とした不安を解消すべく、備蓄、備品の整備等に努めている。	「備蓄・備品の具体的使用・緊急時の職員応援体制の確認」、「事業継続計画の策定」を目標としており、実行が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全体で言葉使いに気を付ける。	利用者に対する目線を意識し、丁寧な接遇となるよう努めている。利用者の健康状態を考慮しながら日々のコミュニケーションと支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話し合いの上、自己決定してもらう。大変な時は、家族と話し合っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	フロアでレクリエーション(貼り絵や卓球)中庭に出てデイトム、散歩等をするにも本人の意思を尊重している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室が、2ヶ月に1度入る。化粧品もそれぞれ持っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	高齢、感染症の観点から、出来ていない点がある。食事介助も必要な方もいます。	栄養のバランスを考慮した食事が提供されており、低栄養状態の利用者に対しても併設の病院の医師に相談しながら支援にあたっている。イベントや季節の行事時には皆で食事を楽しめる機会としている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を個々に記録している、栄養摂取は、タイヘイ(株)からの食材が提供されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、昼、夕と口腔ケアをし、記録している。水曜、日曜は、ポリデントを使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人が、できるところまで見守り、その後は手伝うようにしている。排泄記録を付けており、2時間を目安にトイレ誘導の声掛けをしている。	定時での声掛け等によりトイレでの排せつにあたっている。体調等を考慮してサニタリー用品の選定にあたっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘については、医師に相談し薬を処方してもらう。水分摂取と運動(散歩)など、個々に合わせて取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回入浴支援をおこなっている。	スペースが確保された浴室・脱衣場を有しており、利用者の意思を尊重しながら清潔保持に努めている。支援ソフト・タブレットを活用して記録・確認がなされており、適切な支援につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夏は、冷房、水枕等、夜間は室内温度に気を付けている。冬は、暖房をし、足先を温める為に、希望があれば湯たんぽを使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は、分包されていて、ロッカーに保管し、医師の指示通りの服用をしている。症状の変化があれば、すぐに受診している。入居者自身が服薬管理ができないので、職員が支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションとして、貼り絵や塗り絵や歌、トランプ等多彩に楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は家族と食事に行ったり、墓参りや自宅の外出、温泉旅行に行ったり自由に出かけます。	新型コロナウイルスの影響下にあっても少数人数等工夫したかたちにて外出がなされている。毎月の行事を企画し、状況に応じた対応に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの要望があれば、電話などがかけられる。手紙は年賀状など家族に出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間では、ブラインドカーテンを使用。テレビ、CD等の音量調整。	食卓のアクリル板設置、マスク着用、消毒等にて衛生環境の保持と感染防止対策がなされている。芝生の庭などゆったりとして生活できる環境が整備されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のソファで皆さんと一緒に過ごされる方が多い		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを入所する時、持ってこられ、そのまま使用されている。(椅子、筆筒等)	居室には家族との写真や使い慣れた家具が持ち込まれるなど配慮がなされている。日当たりがよくおもしろいおもしろい過ごることができる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアが広く、安全自立した生活が、個々のペースにより過ごされている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	・ケアプランの作成時、職員のみで計画書を作成して家族の意見などが充分反映されていない。	・ケアプラン立案の担当者会議に家族等にも出席いただき、意見やアイデアをケアプランに反映できるようにする。	・家族などに担当者会議に出席して頂ける様、日程調整を行い、出席を促す。	6ヶ月
2	4	・地域運営委員会は、2か月に1回開かれているが、コロナの関係で書面会議となっていて、報告書は送付されていない。	・地域運営委員会に、コロナ対策をして、家族などに出席をして頂き、報告書も送付する。	・家族等に、コロナ対策を行い、出席して頂ける様に日程も調整する。 ・報告書を送付する。	6ヶ月
3	49	・日常的な外出支援。	・日々の気分転換や季節を感じて利用者の心身の安定や生活意欲の向上を目指す。	・グループホームが高台にあり、展望が良いので天気の良い日には庭で景色や草花を眺めたり、鳥のさえずりを聞くことで四季の自然を感じられる機会を増やす。また、家族に協力を依頼し、外出できる支援を増やしていく。	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。